

すごいがいっぱい！「オホーツクの森」

常呂川森林環境保全ふれあいセンター
菊地 浩司

1. 課題を取り上げた背景

当ふれあいセンターが活動フィールドとしている国有林は通称「オホーツクの森」と命名されており、北見市と網走市にまたがった約3,600haの針広混交林である。そのうち、現在、自然再生モデル事業として97ha区域の針葉樹人工林を対象に、一世代前の針広混交林とすべく、様々な取組を行っている。

ただ、当地は北海道でごく一般に見られる天然林や人工林であり、特に、特徴がある地域というわけでないが、しかし、以外とすごいところがあるのだということを検証報告する。

2. 取組みの経過

1) ボランティア団体

当センターに関係が深い森林ボランティア「オホーツクの会」は役員に国有林のOBはいるが、ほぼ、林業の素人集団である。しかし、近年は、メキメキと実力を付けてきている。現在は、会員数100名規模の中、植物の名前を覚えるなどの勉強会により、会独自の散策会において案内人を行う実力者が出てきており、また一方、独自の自主活動として森林整備にも取組み始めている。

2) 市内大学と連携

北見市内にある大学のうち、1校では平成24年度に国有林職員が講師として授業を受け持ち、また、同校の学生が現地において、「オホーツクの森」での森づくりを体験してもらった。他にも、大学のクラブや各個人が「オホーツクの会」の活動に積極的に参加してもらっている。

3) 「オホーツクの森」の隠れた魅力発見

「オホーツクの森」では各種調査を行っている。自動撮影による動物調査では、普段お目にかかれないジュウジギツネがいることがわかった。また、昨年から水棲生物調査も行い、小沢に、非常に希少な生き物がいることもわかった。その他にも、ヒグマの糞が毎度、同じ所

で見つけており、「オホーツクの森」は多様な生物にあふれていることがわかった。

4) 施設が充実

「オホーツクの森」には各種の施設が充実している。展望台では網走湖やオホーツク海が望める。また、歩道も充実しており、「古の森」では様々な広葉樹の大木もあり、その一方、クリンソウがたくさん見られる歩道もありと、隠れた名所がたくさんある。

3. 実行結果

1) ボランティア団体

現在は、無理のない形での活動が主であるが、当センターとしては、今後、森林整備を少しでも担える体制ができ、そして、森林・林業を応援してもらうようなファン育成とならないかと考える。

2) 大学との連携

学生については勉学の合間で、限られた期間のみでの活動であるが、今後、「オホーツクの会」とも連携して、後輩の学生も含め、継続的に若い人が活動できる場を考えていきたい。

3) アンブレラ種の調査

知床のシマフクロウが生息範囲を広げつつあると聞いており、また、クマタカも希少種ではあるが、日本各地に生息している。そこで、今後、「オホーツクの森」でのアンブレラ種を把握し、森林と生物多様性についてもっと把握していく必要があると考えている。

4) 今後の施設の活用

施設は充実してきており、今後いかにその施設を有効に利用していくか。また、一般市民にももっと知ってもらうかが重要となってきた。

4. 考 察

今回、「オホーツクの森」の色々な面を報告した。報告の中でもあるように、当ふれあいセンターは多くの方々の協力の下、様々な取組を行うことができています。また、少しずつではあるが、「オホーツクの森」は生物多様性に富んでいることがわかってきた。

今後も、森林に触れあえ、森林・林業を理解できるメニューを届けていき、一人でも多くのファンを増やしていくことに努めていきたい。